

「またまた、悲しい無理心中事件報道に接して」へのコメント

先日記載した表記の記事に、早速コメントをいただきましたので、紹介します。

2006. 3. 1. 阿部幸泰

①こんばんは。

読ませていただきました。

私たち周りがあるような相談しにくい環境を作り上げているのかもしれないね。

大人に近づくにつれて自分に関係のないことに対して見て見ぬふり。いかに自分だけ楽に生活していくか、じゃないですがそのような人としてあまりよくないことも覚えてくるんですよね。

小さいころは友達が味噌汁をこぼしたらすぐぞうきんをもってきて拭いたり、転んだら「大丈夫？」と声をかけて手をさしのべたり等、純粹に生活してきたのに。

幼稚園、小学校ではできていたことだったのに急に中学に入るとそれが恥ずかしく感じたり…廊下に落ちているゴミを拾って捨てる友達から「〇〇は偉いね」と言われた覚えがあります。大人になるにつれてあたりまえのことができなくなるのでしょうか。

きっと途中で気付く人は先生のような考えをもつような大人になるんでしょうね。気付かずに大人になってく人が大半だからこのような世の中になってしまうのしょうね。

②この HP の事件、今日、お母さんたちの話題になっていたようでした。（私は聞いていませんが、）

こういうことが身近であると、お母さんたちもショックのよう。

阿部さんの言葉で「支援を遠慮なく受ける勇気」とありましたが、ほんと、そうですね。

すべて自分だけで背負わなくてもいいよ！と言ってあげたかった。

そして、そう言ってくれる人、死ぬ前に、誰か助けを呼べる人はいなかったのか・・・と思います。

③私も、仙台で、しかも鶴が谷と身近な場所で事件が起きた事ということが更にショックでした。

行政は、障がいがある人でも、本人や家族から要求がなければ福祉サ-ビスを教えてないのでしょうね。行政は「困っていませんか？」とは来ないという現状です。

いくらセ-ルスになるとは言っても、必要だと分かっている人には情報としてどんどん発信していくべきだと思います。福祉サ-ビスにはどんなものがあるのか、国民皆が分かるようになれば、苦しみは減ると思うのですが…。

育児や教育の中で、大多数の大人の考えがおかしくなって、まともな人が生きずらい社会です。

私は、この世の中に生まれる子ども達に、人間としてどうあるべきか自らの行動で示して、傷つけあわない社会を作っていこうと思ってくれる子を育てたいと思っています。

まだまだ子どもの前に自信を持って立てませんが、何が善くて何が悲しい事なのか伝えていくことで子ども達の意識が人間らしく育っていけば、きっと支えあって生きる事が出来るのでは…。と思いました。

#### ④ HP 読みました。

私もバリアフリーとか言われながら、本当になってる所が少なく残念に思っています(; >\_<);

バイト先でも、車椅子のお客様が来るのですが、お店が狭く大変な思いをしたり、帰ってしまったお客様もいました。

そのたびに思います。もっとバリアフリーが広がればいいなと思います(物的なものだけではなく、人の心も含め)。

自分に出来ることを考えてみたいです！！

⑤ Hさんへ阿部先生からの支援のように、この無理心中した親子へ心からの支援があれば、さらに「親と子は別人格で、お互いに他人の人権を侵してはならない」と言う教育(知識)があれば・・・と思いました。

阿部先生がおっしゃるように、「ごちそうさま」にしても学校の先生も親も、深く物事を考えないようになってしまっているのでしょうか。

子育ても教育も、本質がどこかに飛んでしまっているようです。

#### ⑥ H P を見ました。

まず思ったのは、最近の世の中は地域・人間関係がとても希薄になっていると感じました。

HPの内容もですが、最近自分の子どもの友達を殺害したと言うニュースもあつたりと、周りとの関係がきちんと築かれていれば防げる事件はたくさんあつただろうと思いました。

この事について母と話をしました。

母は自分が子育てをする時に核家族だったため何もわからずとても大変で、母同士の繋がりがもっとほしかったと言っていました。

だからその不安が大きくなりすぎたら、自分もどうなっていたかわからない。とも言っていました。

そういう、母目線の子育てを聞いてますます保育者の重要性を感じました。そして保育者がパイプの役目もしていかなければいけないと思いました。

話がそれてしまいましたが『人は人とは関わりあい成長する』と言う事を改めて自分自身心にとめていきたいと思いました。